（二十日夕刊）

磐城新聞

大正十年四月二十二日第三種郵便物認可　昭和四年十一月二十一日　［木曜日］　第二千六百九十号　（一）

休刊　九紙二頁、壹ケ月定價（五十錢、郵稅十錢）　一部金壹錢二厘　廣告料（一行平均拾錢指定其後增）

發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔

發行所　磐城新聞社　福島縣平町田町拾六番地　電話平局五番

「らつぱ」第三輯を中心に（下）

平田哲

僕は又徐りに問題をはなれ勝ちである。それ故之を結ぶことにしやう。僕は「らつぱ」のこれらの限界内に於ける正しき傾向を日落子間を取りつゝあることは喜ばしいであらう。具体的に見ると高瀬の「黄色」といふ作品は極めて悪傾向のものである。彼にはもつうたふべきものを認め得ない。僕には一例へば突、無軌道の詩など――こんな所に彼の詩的素材を求めることを止むべきだと考へられる。彼はうたふべきものゝ所有を明かに知つてゐる筈だ。雄野の「喇叭」はよい吹奏曲だ。詩誌「北方」の第三號で見た作品等々と共に「顔」も樹以來、彼の打開しつゝある境地が明かである。たゞアナキー的な精神に對する批判はこゝの問題ではない。松本の「らつぱ」賦」も南車」に就いても書きたいよい作品である。詩的な洗練さと云ふべきものが見られる。だが内容がいかにも空虚に感せられるのは何故であらうか。詩の中に力強い現實性を盛ることゝ――それが今日の詩への詩に對する態度ではないだらうか。僕はこゝで今日の詩壇に於けるシユルシアリズムを問題としたくない。何となればそれ物質的現實的な地盤が見出され得ないからである。僕はさきへ急がねばならない。より多く勝れた作品が殘つてゐるか。である　長瀬の「うじ虫ちあない」猪狩滿直さんとその詩集移住民」の二つ作品はこの第二輯の最大收穫であるだらう。彼がどんな人であるかは僕の知る所でない。だが一彼は「しかに」の知つてゐる人」になにちがひない。ぐん〳〵と伸びることのみを祈つて批評の矢をしばらく待たう。次に佐藤の「墓碑」「秋」である。猪狩の「盡の畑で」はよ

以上で大體終つた。然し僕は一貫して重大なものが缺乏してゐるのを感ずるのである。直接には詩人のイデオロギーの轉換であり内容の變革――叙事詩への出發がそれである。かくして始めて「らつぱ」は「大衆の中にける藝術家を呼び醒ます」眞の役目を果すものとなるべきであると思ふ。詩集「移住民」及び「しづかに」の如き詩人があれば幸です。「創作その他が何故願盡さないか」に就いても書きたいがその機會を待つ「らつぱ」の發展を祈る。

情操教育に就いて

青山哲

情操教育を賣り物にしてゐる學校があり。曰く「情操教育を施すには菊の花を栽培するに限る」と。或る一名案中の名案である。恐らくこんな名案は又とあるまい。といふのはだん〳〵話せば判ることであるが、先づ第一に私の考へ方は、教育の最高の目的であるまことである。不良少年や水兵を排出することが情操教育の必要は尊ろ一の御本人達に施すべきであらう。でなければ猫でも飼つた方がよつぽど情操教育の効果があらう。

▲一白の人　無謀短慮に走り易き日柄事にも愼みが第一▲二黒の人　運氣盛んなる日名弘め企業開店向きよし▲三碧の人　至極結構なる日急がずとも思ふ所に達せん▲四綠の人　依頼心を起さず自ら勵む時は發身一人と澤山ぢや、次男と末男と去つたでせうか、日はもう空高く昇つて居りました。

「あゝ、さうだ！」

彦九郎は、やがて、はつと氣付いたように立ち上りました。

「私ゝ出掛ける時は、みんなまだ寢てゐられた。お祖母さまも、お祖母さまも、お父さまも、お祖母さまも、さぞ心配してゐなさるだらう」

彼は大變、いけないことでもしたようにあはてゝ足だ」

彦九郎は投げすてるように云つて家路を急ぎました。

「ばかに、お急ぎぢやありませんか」

「お父上の墓參に參つたのする必要があるなればどこかに其効果が充分現れてゐることを當人達は認めてゐるからに違ひないがさうすればどの方面に効能顯著なりやを探求發見する要も第三者の關人としてなかなか興味ある學ではある。

ともあれ私等平凡なる人間から考へると生徒に趣味の強制を施すひまに不良少年や水泳等を充分に取締つて怪我でもないように氣を付けるべきであると思ふのである。

情操教育といふから教育の時間には違ひないのだらうが多くの時間と強制勞力を費して、やう〳〵出來上つた菊花の美學なる幾鉢は白晝公然と或ひは暮夜ひそかに要所〳〵の危險な筋に持運ばれてそこに初めて情操教育の効果を顯著ならしめる役目を演ずるのであるとしたら……

勞力を奉仕した生徒達の限りなき愛着を無殘にもおち切つて、要所〳〵へ搬出してしまふ事が情操教育の眞髓か？然してその評判をあがなはんと欲するか？陋劣ならその心情よ、情操教育の必要は尊ろ一の御本人達に施すべきであらう。でなければ猫でも飼つた方がよつぽど情操教育の効果があらう。

「しかし、今は御治世が違ひまする。高山家は今は百姓ではございませぬか」

叔父の、彦九郎をかばふ言葉を怨ずるやうに、傳藏は云ひました。

「さあ、そこぢや」

長藏は、そこで一旦聲を呑んで、

「わしも、た前を憎いといはせぬ悪いといひはせぬのぢやが、百姓は百姓の分を守る志をちかひ、一死報國の誓ひを新たにするのでし

幕末奇傑高山彦九郎

（2）中西洋々作

布施長春畫

双葉の頃（二）

「しかし、今は御治世が違ひまする。高山家は今は百姓ではございませぬか」

叔父の、彦九郎をかばふ言葉を怨ずるやうに、傳藏は云ひました。

「さあ、そこぢや」

長藏は、そこで一旦聲を呑んで、

「わしも、た前を憎いといはせぬ悪いといひはせぬのぢやが、百姓は百姓の分を守る志をちかひ、一死報國の誓ひを新たにするのでした。

彦九郎は魂をうけ

「ぢやと申して……」

「まあいい、まあいい、わしも考へるところがある故」

彦九郎のことは樣はすはらつて置くがよい」

劍持長藏は、かう云ひすてるとまだ不滿げな傳藏を殘してその場をはづして了ひました。

彦九郎は、その時隣室にあつて讀書してゐましたがこの叔父の理解ある言葉を聽一重帶てゝきいて何にも感ずる激勵の聲を感じました。

それ以來、幾星霜、その頃まだ十三の少年だつた彼も、一度もかゝさず月々の亡父の命日に墓參しては尊き叔父は決してうげすみはせぬのぢや、いやさげすむどころか天晴れものぢやと常々た祖父さまにも話して居る程なのぢや。だが……」

長藏はそこで語調を改めて

「だが武士の血の流れてゐるといふことも、また爭はれぬ事實なのぢや。高山の家は今は百姓であつても御先祖樣の靈魂は滅びない。高山の家は百姓で立つてゆかねばならぬが、それはたゞ一人と澤山ぢや、次男と末男もあれば彦九郎ばいづれ分家せねばならぬ身、してみれば青表紙讀まうと、赤表紙讀まうと、一向にかまはぬではないか。喃、傳藏」

「……」

「た前は、業をついで家々

葉はよう〳〵分つた。た前が青表紙讀まぬからとて、この叔父は決してうげすみはせぬのぢや、いやさげすむどころか天晴れものぢやと常々た祖父さまにも話して居る程なのぢや。だが……」

長藏はそこで語調を改めて

「だが武士の血の流れてゐるといふことも、また爭はれぬ事實なのぢや。高山の家は今は百姓であつても御先祖樣の靈魂は滅びない。高山の家は百姓で立つてゆかねばならぬが、それはたゞ一人と澤山ぢや、次男と末男もあれば彦九郎ばいづれ分家せねばならぬ身、してみれば青表紙讀まうと、赤表紙讀まうと、一向にかまはぬではないか。喃、傳藏」

「……」

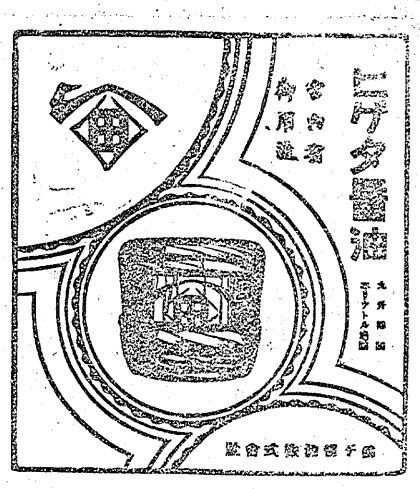
「た前は、業をついで家々

その日は恰度父が十週忌の當日でした。いつの日よりも早く起きて、露に濡れながら墓前にひざまづき、彼の潛越を呪咀しました

「た父上、彦九郎必ず天朝樣の明を奪ふ魔人を滅ぼして、再び王政を古にかへして御目にかけまする。

東方の空を屹とみつめ乍ら彦九郎はいつまでも〳〵墓前を離れようとはしませんでした。

それから幾刻の時がすぎ去つたでせうか、日はもう



寒さの御用意
實用品の廉賣

日に增し寒くなつて參りました。寒さの御用意は「緊縮時代」に相應しい「實用品」……と決りました。弊店は「金解禁」を前に安價のどん底を仕入れ、皆樣に買つて戴く事にしました。どうぞ一度御覽下さい。そして御撰擇を願ひます

◎御祝儀一式　◎七五三祝着品々　◎銘仙類
◎着尺モスリン　◎友仙　モスリン
◎ナフトール着尺新柄　◎ニコ〳〵新柄

亀田屋呉服店
平町三丁目　電話五七番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋山崎合名會社
電話一〇番

清釀造元　世界吉　清水屋
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
小野晋平
電話六番

冬の大賣出し

御婚禮用品各種
丸帶　江戸褄　紡門着
御召　綿紗小紋　袴地

防寒用品各種
レヂコート地　ショール
羅紗オーバー　既成コート

新製　ベビー用品陳列
ベビー洋服　メリヤス肌着
袖ナシ　男女　初着
ベンツ　各種

平町　三井呉服店

耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

內、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

生花教授
池ノ坊流　生花を愚切叮寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は
三四三番

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材　請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他

㊫佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

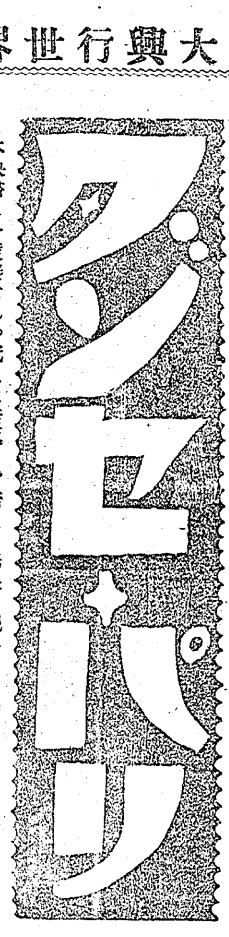
後援
磐城時報社
磐城新聞社
常磐毎日新聞社
東北日々新聞社

短期特別大興行世界的秘畫公開

▼十一月二十一日ヨリ二日間限リ▲

◇松竹下加茂超大名作映畫
痛烈猛鬪大恐血篇
人非人　全
助演……岩月孔雀　千草晶子　關操　相馬一平……其他

◇佛國スター・ラキルム・エデイション映畫
◇主演者（ジヨロフイン・ベーカー孃（コマロワ夫人・ジヨンテイラーガールズ）其他
白裸の美女數百、一糸纏はず、飛躍、又飛轉
憧憬と夢と陶酔、歡樂境が、はたまた地獄界？
細胴目を奪ふ極彩色映畫巴里名物曲綜美レヴユー



平館

本映畫に一度接せんか老人は若返り、若人は無限の觀喜に陶醉す不老長生を希ふ者必ず本映畫の眞髓に觸れ其の快感を味はれよ
フオリー・ベルジエール座員總出演
ジヨエフランシス畢生の大作映畫

◇佛國政府秘藏實戰大映畫遂に發表さる◇
歐州大戰中の大壯ベルダン要塞の戰の實寫
偉大なる實寫　攻防五年ベルダン城　全
（エレクトラー式全レコード伴奏）

佛國の精鋭七十余萬。戰線百哩に亘る流血飛肉の會戰器中獨帝好戰王カイゼル。獨逸皇太子・ヒンデンブルグ元帥ヘーゼル元帥マウケンゼル元帥フオワシユ元帥始め戰器無數ツエツペリン號の大飛躍に壯慘無比なる空中戰等盡し古今無比の實玉篇

入場料　特大一〇〇　小六〇
　　大八〇　小四〇
　　大六〇　小二〇

變造債券で三千七百圓
百澤易興氏が詐欺に掛る
去る五日廣野の遠藤勇五郎に
被害續々と現はれん

平町二丁目常盤銀行平支店より變造公債證書を以て四千五百圓を欺取せんとする所を疾くも看破され遂ひに平署に捕はれた双葉郡富岡町上野耕三(五二)外二名の大詐欺團については本紙昨報の如くで平署は嚴重取調べの一方本部は東京にあるものと目星を付け警視廳と連絡し目下全國的に大檢擧の手を延べてゐるが去る本月五日双葉郡廣野村遠藤勇五郎と稱する者が平町四丁目百澤易興氏方に來り五千圓の公債證書を擔保に金の融通方を申込むので百澤氏は三千七百圓を貸し今日に至つたところ常盤銀行平支店に於ける詐欺未遂が新聞紙によつて知つた百澤氏は右債券を詳細に檢分すると同様二十五圓券を五千圓と變造したものである事が判明し驚ろいて今朝平署へ訴出たので平署では此の方面から新活動の手を延べたが同一手段によつたことが明かに此の外同様被害が當地方にも可成りあるらしく事件は益々擴大視されてゐる

主魁は上野

殆ど全國的に 警視廳大活動

事件の張本人は平署で取調べの結果平町大町一五北郷竹次郎(五二)双葉郡富岡町上野耕三(五二)同双葉郡廣野村鯨岡清一(三九)の三名で目下嚴重取調中であるが同人等の自白に依つて東京にたける首魁の逮捕方を警視廳に依頼したところすでに死亡してゐる者の名前と判つたが連類者多數ある見込みで某海軍退役中將も關聯してゐると傳へられてゐる尚北郷は逮捕された際一味中の上野が東京から同人に寄越した書狀及び重要な手帳を犯事の隙を見て裂き隱匿を計らんとした事實等もあり一方警視廳の捜査中現はれた結果によれば犯人は早くも逃走してしまつたこれと相前後して同様な手段で被害を受けたものは東京をはじめ大阪、京都、福岡等で十數ケ所に上つてゐるが犯人は犯行の際は常に表に現れず地方人を利用して巧妙に大金を詐取し金が手に入ると姿を消してゐるので本間警部は東京大阪を根城とした大詐欺團がより二、三人づつ一組となり全國をまたにかけて銀行專門に荒し回つてゐるものとにらみ各府縣警察部と連絡をとり捜査を進めてゐる

不幸中の幸 山下三次氏談

變造債券を北郷から頼まれて常盤銀行平支店に借りに行つた山下三次氏は語る

實は右債券が本物なら自分で金を貸してもよいと思つたが北郷と云ふ男が信用出來ぬので鑑定をして貰ふつもりで銀行に行つたところ遂ひに變造と判明し私が警察に電話を掛けた次第で今少しの所で引掛るところを無事に濟んだのは不幸中の幸でした」云々

平町敎育會 總會 平第一で開催

平町敎育會では二十三日午前十一時より平第一小學校で總集會を開催し尚當日は歐米十ケ國兒童成績品、日本小學校兒童成績物、磐三郡小學校兒童圖畫及平第一小學校齊方等の展覽會を催し兒童の競爭熱を高める一法として又父兄の愛兒指導上多數の來觀を望むと

小名商港の寄附に 淺野氏の苦情
斯くして呪はれて行く 民政内閣の崇り

小名濱築港に對する本年度支出額は六十三萬圓であつたが民政黨内閣の出現に依り實行豫算に於て僅か五萬圓に削減された上更に明年度の支出額六十五萬圓も十萬圓に削減することに決定した、然るに最近問題となつてゐるのは同築港計畫に最初より重大なる關係を持つて居る淺野總一郎氏の百萬圓寄附であつて同氏と本縣との契約では工事に著手してより毎年廿萬圓づゝ五ケ年賦でれたが淺野氏としては本年度の豫算額六十三萬圓が僅五萬圓に削減されては本年度の豫算は仕事がなくて遊んで居る關係役人の人件費に充當される始末で工事の方は一向著手して居ないも同然の狀態であり更に明年度豫算六十五萬圓までが僅か十萬圓に減額されては一體何時工事が出來上るか

全く見當さへつかぬ

殊に淺野氏は相當高齡で是非存生中に工事の完成を見大に利用したいと希望して居るのに目下のやうな狀態では到底それはかなひさうにもないと無理からぬ主張をして居る併し契約の手前もあり本年度の支出額に比例して約一萬六千圓が納付される見込であるが小名濱商港は民政黨内閣の爲め斯くして大なる支障は支障を生みつゝあり地方民の内閣に對する反感は高まつてゐる

酌婦ドロン 平署へ捜査願

山形縣山形市生れ當時江名町大字江名字北町飲食店佐藤午三方水仕大場ムネヨ(三五)は去る十一日前借二百五十圓で雇はれたが十九日午前五時頃逃亡して平町の待合に住込んだ形跡があるので平署に捜査願ひを出した

平館のダンセパリ

平町活動常設平館に於て二十一日、二十二日の兩日限り絶對日延なしで上映する世界的珍寶名畫ダンセパリは巴里の歡樂境に於て數千名の美女が裸踊りの奇拔極まる映畫で不老長生を希ふものは必らず本映畫の眞髓にふれよと銘打たれた素破らしいもので尚ほ古今未曾有の大戰映畫攻防五年ベルダン城並に日活特作輝きの受難等何れも名畫ぞろいで入場料六〇、八〇、一〇〇の處平町日刊四新聞の後援割引券を持參すれば各等半額で前人氣旺ん（寫眞はダンセパリ映畫の一部）

回春園に碁大會
來る廿三日新嘗祭に 出場天狗の氏名

豐間村回春園では來る二十三日新嘗祭をトして同園々長川井重之氏の主宰で棋仙の集合碁會を催す筈で多數來合を歡迎する由で參加決定せる面々鳥鷺の天狗連の氏名は左の如し

佐藤庄太郎　瀨尾善之進　濱崎善三郎　大方遠也　御代定吉　平川喜久也　宮下秀洋　小林美定　山崎德三郎　木村宗白　宮下秀貫　會田政次郎　柳澤今朝市　安島重三郎　池部虎雄　谷口仁太郎　額賀宏治　佐々木芳一　佐川芳松　濱口岩　飛塚高次　（以上）

自動車の違反

石城郡小名濱町貨物自動車業小野德次郎(五三)は抱運轉手小出龜吉に許可のない自動車を運轉せしめ料金をとつてゐたこと發見平署に檢擧取調べを受けた

蓮沼氏上京

本社副社長蓮沼龍輔氏は今二十日午前二時平發の急行にて上京し二十三日中に歸平の豫定

大木の下敷 廣吉壓死す

石城郡永戸村字合戸字入鍛製炭業古橋廣吉(六二)は十八日午後二時頃次女タケ(一六)を伴へ同地國有林内で立木伐採中廣吉は直徑一尺の大木の下敷となつて壓死した

十六才の小娘が 私印僞造詐欺
拾つた郵便貯金通帳で 平署に檢擧さる

湯本町大字湯本字三函結髮業佐藤シメ方石坂某(一六)は十一月中旬頃同店に結髮に來た三井炭礦内赤木巳枝の置忘れた四十五圓貯金通帳を隱匿し友人尾形某(一七)と結託して之れを拂房すべく湯本町椎名菊治方に印製造を依頼し製作後七日湯本郵便局で右の金額を受け取らんとしたが局員が前記佐藤の用へた印と違ふので藤原郵便局で受取してくれと體良くはねつけたので更らに岩崎村ノ役崎ハナ(三〇)に依頼して受け取らんとしたことを平署に採知され私印僞造詐欺として平署で取調べ中

竣工した 丸昌ホール 廿三日被露式

平町南町丸昌吉田昌弘氏は平町に未だ講演會、協議會觀送迎會その他集會に適する集會場の無いのを遺憾として今回巨費を投じ丸昌ホールを建設工事中の處全く竣工したので來る二十三日午後三時より有志、新聞記者等を招待して披露式を擧行すると

拾つた金の 禮金を寄附 四倉相談所に

石城郡草野村大字原高野字民町伊藤正吉氏は去る十九日午前九時二十分頃四倉町郵便局より金百圓を拂ひもどし歸途右百圓を紛失したのを久之濱町仲町安島龜太郎氏が拾得四倉署に屆け出たので正吉氏は禮金として金五圓を安島氏に贈つたが安島氏は四倉警察署人事相談所に金二圓也を寄附して立ち去つた

植田町會

後期戸數割其他

植田町會は十二日午前九時より小學校に召集左記の附議をなす筈であるが後期戸數割は前期同様八千六百餘圓である

後期戸數割の件、漁業稅の件、岩間小濱間の町道改修の件

平局電話 廿五日頃開通

平局にたける本年度電話は目下架線その他の工事中であるが大体において二十日ころまでに竣工するので二十四五日ころから通話開始の運ぶにいたるものと見られてゐる

電燈料値下げに 委員社長と會見
來月二日連袂上京して 永倉所長は取次役

平町會の問題となつた東部電燈會社の電燈料値下ならびに要求はその他花澤町議外七委員が會社に對する交渉およびその對策に就て協議を進めてゐたが、愈々平町會の名に於て電燈料並に動力料金の値下交渉を開始することとなり既報の如く十九日午後二時平町遠藤助役外七委員は東部電力會社平營業所に永倉所長を訪ひ町會の決議文並に口上書を手交したのにつき永倉所長は

委員の方が交渉に來られましたが私は一雇傭人でありますから之に對して御答へすることは出來ませぬたゞ本社に通達の役目だけを致します

旨の返答なので遠藤助役外七名の委員は來る十二月二日上京東部電社長に會見運動の筈である

金解禁に就いて（中）
經濟學士　金成增彦

要するに物價下落の場合に最も困る人は物品を持つて居る人と勤務所得者とである、之に反して金を持つて居る人は最も好都合である。と言ふのは物價が下落すれば少量の金で多量の物品を販賣する事が出來るからである尤も銀行は金を持つて居る様だが實際に金を持つて居らぬ。金は持つて居るも貸付てある。然るに擔保が下落して回收が困難になるから銀行も物を持つて居る人と同樣困る者の一人であらう。

然らば農村にはどんな影響があるかと見るに第一に養蠶家が困るであらう。生絲の値が下落することは明である、四四弗のものが四九弗八分七(平價)になれば約一割二分下落するであらう、それは引いて繭の値段に及ぶであらう。全國で養蠶家の數は二百萬戸との事であるから一戸五人の家族として一千萬人の人がこの繭の價段と關係があるわけである、之に就いて土方博士著金解禁の第一一四頁に次の如く書いてある「產繭額は年によつて著しく消長するが今之を六億と見積り之に對して一二、一%の下落が起るものとすれば七千二百六十萬圓の下落を見る」この金額を二百萬軒で負擔すれば一軒三十六圓餘となる。

最近十ケ年養蠶戸數及產繭高（帝國統計年鑑による）

	戸數 千	千圓
大正七年	一、九一〇	五三七、九六八
同　八年	一、九四三	七七一、四〇九
同　九年	一、八九四	三六五、五一九
同　十年	一、八〇三	四九九、一七七
同十一年	一、七六五	五七三、一三五
同十二年	一、八六三	六六〇、四〇四
同十三年	一、八九〇	五五一、六八〇
同十四年	一、九四〇	八二四、五四四
昭和元年	二、〇六一	六六二、四四三
同　二年	二、一〇三	四九六、四四三

次に米價も下落することであらう。我國では全人口の半分は農家である而して米は半分位は自家消費が行はれ、の他半分が農家以外の者に賣却されるが米の年產額は十七八億圓と見て八億乃至九億圓は商品として市場に出ると見ることが出來よう。然らば米價の下落も亦農村に及ぼす處が偉大であらう。

金解禁と景氣回復

金解禁の熱心なる主張者の中にはこさい實行すれば急に景氣でも回復する如く考へて居る者がある。前にも述べた樣に金解禁すれば必ず物價は下落すべくこの事は何人も否定せぬ處である。現に英國では大正十四年四月に金解禁をしたのであるが解禁後九ケ月間即ち同年十二月には物價は六、六%下落したのである。而して物價が安くて景氣の良かつた例がなく（景氣が良いと言ふことは物價の高いことゝ或は失業者の少いことを意味する　カツセル等は生產高の多いことを以て景氣を計る尺度とし、ピグー等は失業者率を以て景氣を計る尺度として居る）若し景氣が好くなるとせば輸出貿易が振興して企業が大に進むと言ふが如きことから始つて來る筈である。過去の經驗に於ても戰爭とか外資の流入とか言ふ事に刺戟されたのでなければ輸出の振興である。然るに爲替相場の回復は必しも輸出を振興せしめない、のみか時としては輸入に有利なる事情を起すのである（前述生絲の値段が爲替相場の回復によつて一割二分下落すると言ふたが外國より輸入する場合には一割二分だけ利益になるわけとなる）輸出の振興は外國に於ける需要の增加か我生產費の低下と云ふことからでなければならぬ。即ち我邦の過去の例に依しば歐州大戰爭の時には露國あたりから軍需品の註文が殺到したること、及び歐州先進國が戰爭のために生產を減少したゝめに南洋、印度、支那等に日本品の需要が增加したことに依る、然し之は外部の事情で金解禁とは何等關係なきことは明である然らば生產費が低下するか、之は相當の時日を要するもので卽ち前述の如く金解禁すれば國內の物價が低落し不景氣が來て總ての人が所謂緊縮生活を行ひ其結果金融も緩漫となり金利も低下してそれだけ生產費が低下し輸出が增加するであらうが然しそれは解禁の直接の原因ではない。

看護婦募集
月給三十圓迄支給す
希望者履歷書持參來院ノ事
平町田町
赤心堂病院

流行の最先端!!
本年流行の婦人ショール
可愛らしい子供服
平四
ツルヤ
電一四〇

新築落成
耳、鼻、咽喉科 氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田院
醫 大和田郡司
自炊の便あり

平町田町
高久病院
電話五一～三番
醫學士 高久忠
新潟醫專 赤羽滯
醫學士 佐竹雄
内科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

世界各國特許新形掛時計
文字三ツデ時間ヲ表示スル
一分間表示正確無比
ニユークロツク、諸會社病院學校商店向キ着荷致シマシタ、是非御買上ヲ願マス
貴金屬 時計 眼鏡 蓄音機
平町五丁目
金光堂時計店
電話七三六
時計蓄音機修理大勉强